令和3年度　都農町立都農小学校　～ 自己評価書及び学校関係者評価書 ～

校　長　　三橋　正洋

学校の教育目標：「知･徳･体の調和のとれた心豊かな児童の育成」スローガン：「全力一心の教育の推進～夢を抱き、絆を大切にできる子どもを育もう」《評価基準・・・４；期待以上　３；ほぼ期待どおり　２；やや期待を下回る　１；改善を要する》

評価項目		現　　状	自己評価	成果と課題	評価委員の意見 （○：成果　▲：課題→：課題改善のための手立て）	評価
確かな学力の定着を図る教育の推進	◎初期研修・ OJT による授業力の向上 ①メンターチームによる初期研修 ② ICT の効果的活用と「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善 ③家庭学習の充実	①　メンターチームによる初期研修 ○　確実な学びのための４つのチェックポイントを基に、相互に授業を参観したり、互いの技を共有したりする研修システムを整えてきた。今年度は、初任者１名、講師２名を対象にチームで育成を図った。 ②　ICTの効果的活用と「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善 ○　メンター長を中心に低・中・高学年部に分かれ、一人一研究授業を実施した。 ○　児童一人一台タブレットを効果的に活用した授業の構築に努めた。 ○　「学力向上月間に漢字力、計算力を高める取組（Ｋ１、Ｓ１）を実施した。 ◆意識調査（進んで発表についての肯定回答率）　【児童６７％、保護者７３％、教師８４％】 ◆意識調査（話をしっかり聞くについての肯定回答率）【児童８５％、保護者８７％、教師５０％】 ◆意識調査（学習内容の理解についての肯定回答率）【児童８４％、保護者８６％、教師７５％】 ③　家庭学習の充実 ○　家庭における学習習慣の確立に向け、「家庭学習の手引き」や宿題の見直しを図った。 ○　親子読書週間を設け取り組んだり、読み聞かせボランティアによる読み聞かせを計画的に行った。 ◆意識調査（家で復習しているの肯定的回答）【児童７８％、保護者６８％】 ◆意識調査（家でも読書をしているの肯定的回答）【児童：７３％、保護者：６６％】	3	○主体的な態度や学習習慣など、年々よくなってきている。グループ活動やICT活用も効果を上げているので、今後も発表の機会を作りたい。 ○児童へのアンケートをもとに、新刊図書の購入を行った。読書に取り組む児童が増えているが個人差もある。児童が興味を持つ企画を考えていきたい。 ●授業では、少し自信のない子どもたちへの手厚い指導が必要である。 ●学年が上がるにつれ、宿題を提出できない児童がいる。家庭学習の内容を精選し、短時間で効率的に取り組める工夫が必要である。	○学校教育目標とスローガンを踏まえて指導計画を高く評価する。 ○先生方の振り分けによるレベル向上がうまくいっている。相互参観週間の取組など、引き続き実施できるのは良い。 ○様々な学習・授業の変化によく対応している。 ○児童のアンケートによる本の購入は良い考えである。 ○参観の際、子ども達がタブレットを効果的に利用していた。自宅で授業が受けられるので期待がもてた。 ▲児童が興味を持つ企画を先生と考えて実現出来たらよい。 ▲読書の習慣化→導きとして読書の感想を自由に表現できる方法を取り入れてはどうか。（感想をコラムのように短く数行で作文したり、簡単に本の中で気になった言葉や新しく覚えた言葉を抜粋したりすること等） ▲宿題が多すぎるのは子どもたちの負担である。→宿題には工夫が必要。家庭での指導もあわせて自宅学習の意義を理解する力と時間配分・自己管理力を身につけさせる。	3
心と命の教育活動の推進	◎自己肯定感と思いやりをもった温かい人間関係づくり ①「よろこばせごっこ」を合言葉にした自己肯定感の醸成 ②命を守る教育の推進 ③メディア教育の推進	①　「よろこばせごっこ」を合言葉にした自己肯定感の醸成 ○　毎月、校長や生徒指導主事が「よろこばせごっこ」について話をしている。また、生徒指導週間等を設定し、全職員で取り組んでいる。 ◆意識調査（思いやりのあるやさしい行動の肯定回答率）【児童９４％、保護者９５％、教師８５％】 ②　命を守る教育の推進 ○　毎月の心のアンケート（親子心のアンケートは年２回）を実施し、教育相談をしたり、いじめ不登校対策会議等を開いたりして、全職員で共通理解を図っている。 ○　動物愛護センター協力による授業の実施、福祉教育の充実（第３学年以上）を図っている。 ○　三先生を偲ぶ会、命の日（毎月１８日前後）には、戦争体験者や職員による講話を実施している。 ○　人権集会（１２月）への取組では、各学級ごとに標語づくりを行い、児童玄関に掲示した。 ◆意識調査（笑顔で楽しく生活の肯定回答率）【児童９４％、保護者９６％、教師１００％】 ③　メディア教育の推進 ○　健康指導週間での「がんばりカード」で、ゲーム時間などをチェックをし指導を行った。 ○　高学年でドコモのケータイ教室や防犯教室の実施、保護者向けに家庭教育学級での啓発を行った。 ◆意識調査（テレビやゲームの時間を決めているの肯定回答率）・・・【児童７３％、保護者７１％】	3	○「よろこばせごっこ」の取組により、肯定的な回答が多かった。今後も日常での思いやりのある行動を称賛したり、紹介したりしていく。 ○命を守る様々な取組で、自分や他を大切にしようとする思いが育ってきている。しかし一方で、小さなトラブルも起こっている。今後、些細な問題でも小さなうちから摘み取れるよう、報告・連絡・相談を徹底し、全職員で早期解決にあたっていく。 ●メディア教育は、家庭での取組も不可欠である。今後、町の取組としての啓発を行い、ルール作りを強化して、トラブル防止に努める。	○自他ともに楽しく生活ができている評価ができている ○教室の周りや廊下への掲示物が多く、思いやりのある明るい学校が目に見えて分かった。 ○「よろこばせごっこ」素敵なネーミングである。廊下に子どもたちの良いところ、感動したなどの掲示有り。教育的な言葉の羅列あり。素敵な空間である。 ○家族構成が多様化している時代「心と命」の指導は慎重に取り組まなくてはならない。動物愛護の観点から、子ども達に思いやりや愛情､豊かな感性の育成への導きは有用である。 ▲メディア教育→防犯教育を通じて、だれもが犯罪へと巻き込まれる可能性があることは伝えていきたい。ゲームの時間は､各自がグラフで自己評価していく方法はどうであろうか。 ▲アンガーマネジメント研修は、父母、子ども達も学べるとよい。	3.5
将来を生き抜くたくましい心と体づくりの推進	◎感染症対策の徹底を核とした気づきの健康教育 ①体力づくりの運動の充実 ②「５つのできる子+１」を通した非認知能力の育成 ※　あいさつ、返事、履物、掃除、右一静歩、よろこばせごっこ ③ 食育及び「早寝・早起き・朝ごはん」を意識した生活習慣作りの充実	①　体力づくりの運動の充実 ○　体育の時間を中心に都農小ならではの取組（持久走記録会等）を行っている。 ○　小学校体育活動推進校指定により、外部指導者による指導を取り入れている。 ◆意識調査（運動・遊びについての肯定回答率）・・・【児童８２％、保護者８１％、教師９３％】 ②　「５つのできる子+１」を通した非認知能力の育成 ○　機会があるごとに、校長及び生徒指導主事から「５つのできる子+１」について話をした。 ○　児童の計画委員会による「あいさつ運動」やＰＴＡによる「あいさつ運動」の取組を行っている。 ○　学期ごとに集計した数値を学校だよりで示し、可視化した。 ◆意識調査（あいさつについての肯定回答率）・・・【児童８７％、保護者８９％、教師８６％】 ◆意識調査（返事についての肯定回答率）・・・・・【児童９３％、保護者８８％、教師８５％】 ◆意識調査（清掃についての肯定回答率）・・・・・【児童９５％、保護者４８％、教師９３％】 ※　保護者は「自分から進んで身の回りの整理整頓」で評価 ◆意識調査（履物並べについての肯定回答率）・・・【児童９２％、保護者６１％、教師９３％】 ◆意識調査（右一静歩についての肯定回答率）・・・【児童８７％、保護者９５％、教師５７％】 ※　保護者は「交通ルールを守る」で評価 ③　食育及び「早寝・早起き・朝ごはん」を意識した生活習慣作りの充実 ○　健康指導週間での「がんばりカード」（就寝時刻やゲーム時間のチェック）を実施した。 ◆意識調査（早寝・早起き・朝ごはんの肯定回答率）【児童８４％、保護者８７％】 ◆意識調査（苦手なものも食べているの肯定回答率）【児童８８％、保護者７６％】	3	○コロナ禍で大きな声でのあいさつの指導は難しかったが、朝の登校時や校内での会釈など、できるようになってきている。 ○コロナ感染対策は、昨年より若干意識できるようになってきた。このまま継続して取り組んでいく。 ●廊下歩行は、児童と教師の意識の差がある。半数以上ができていると思っているが、振り返らせることでしっかり取り組めるようにする。 ●無言清掃や履物並べ等、学校でとてもよくできているが、家庭ではできていないという実態がある。いつでもできるよう習慣化する必要がある。 ●偏食指導は難しさもある。家庭と連携しながら取り組んでいく。	○子どもたちの様子を見ると、楽しい学校生活が過ごせていると分かる。 ○子どもたちのあいさつが元気で気持ちが良い。 ○全ての取組を意識調査で「見える化」したことで、今後の導きに期待が高まる。 ○外部指導者による指導をいろんな分野で取り入れ、地域の方々と一緒に学ぶ場の取組は、素晴らしい。 ○藤見の運動公園で持久走大会は、素晴らしい経験である。事故などの安全面でも毎年開催するとよい。 ○日常生活から学校と家族との連係プレイで、活動を持続していくと評価がまだ上がると考える。 ▲たくましい心と体づくり→忍耐力が大切。忍耐力をつけさせるような指導が必要。 ▲コロナの影響でなかなか元気な挨拶ができていなかった。→大人が模範となって、また高学年児童がお手本となっていくとよい。	3

学校の教育目標：「知･徳･体の調和のとれた心豊かな児童の育成」スローガン：「全力一心の教育の推進～夢を抱き、絆を大切にできる子どもを育もう」《評価基準・・・４；期待以上　３；ほぼ期待どおり　２；やや期待を下回る　１；改善を要する》

評価項目		現状	自己評価	成果と課題	評価委員の意見 （○：成果　▲：課題→：課題改善のための手立て）	評価
ふるさとのよさに気付き地域貢献につながる開かれた学校づくりの推進	◎あこがれの大人との出会いを通したキャリア教育 ①キャリア教育の充実 ②ふるさと教育の推進 ③積極的な情報発信	①　SDG ｓをテーマにしたキャリア教育や（４年）職業人講話（６年）を実施している。 ②　地域学校協働本部との連携により、地域人材を活用した「ふるさと教育」の推進に努めた。 １・２年・・・町探検（保護者、自治会長他）、七夕交流、昔の遊び（更生保護司他） ３・４年・・・ワイナリーやキウィ農家見学（事業者） ５・６年・・・米作り（JA 青年部他）・フラワーロード（高齢者） ③　ホームページや学校・保健だより、学級通信、新聞やラジオ投稿など積極的に情報発信を行った。 MRT ラジオ放送・・・述べ６名 宮崎日日新聞掲載・・述べ５２名（４月～１２月１７日現在）	4	○４年生を中心に、SDG ｓについての理解が深まってきている。今後、全学年に広げていきたい。 ○地域学校協働本部の協力により、「ふるさと教育」で多くの地域の方と交流を図ることができた。今後も引き続き取り組み、ふるさとのよさに気付かせたい。 ○メディアを通し、都農町や都農小の情報発信ができた。多くの児童が掲載（放送）されるよう、継続して投げかけていきたい。	○地域の人々がつながる場として学校があったり、教育の場に参加することでお互いの良い意味で相乗効果があった。 ○学校の学習のほかにも様々な取組がなされている。子ども達もたくさんのことを経験し、自分たちの住む町について興味をもち、大人になって活かしてほしい内容である。 ▲高齢者との交流→核家族化が進行しているものの都農町は高齢者世代も多く、工夫次第でふれあえるチャンスは見いだせると考える。まずは手紙などの文書交流から始めてみる。 ▲子ども達をほめること→「誉め育て」から「将来の夢の実現」に向けて、大谷翔平さんがメジャーリーグに行くため掲げた目標や過程を例にするなどして、自分の夢をかなえるためには何をどのようにしたらよいか、具体的あるいは、自分なりのビジョンを書かせてみる。 ▲流れたラジオなどを実際耳にする機会があった方が良い。（学校放送等）	3.8